子育て支援 教育

Q 子ども医療費（通院費）の助成対象年齢を中学３年生まで拡大を

光本 一也 議員

A 〈町長〉

2023年度からの実施に向け検討する。

【Q1】
現在、熊野町の通院に係る子どもの医療費助成の対象年齢は、就学前（6歳児）までとなっている。県内では、23市町のうち13市町（56％）が中学3年生まで又はそれ以上に拡大してきており、本町は遅れを取っている。
本町が、子育て支援の推進を町内外に強くアピールし、定住促進、定住人口増を目指すためには、中学3年生まで拡大することが必要であり、このことを強く要望する。

【A1】
平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興が一段落する2023（令和5）年度からの実施に向け、対象年齢の拡大を検討したい。対象年齢拡大の範囲については、これまで無料としていた一部負担金を全ての対象者からご負担いただいたうえで、中学3年生まで拡大したい。

Q 〈光本 一也 議員〉 「くまどくノート」に代わる「読書通帳」を導入してはどうか

A 〈教育部長〉

費用面を含め検討したい。

【Q1】
「くまどく事業」の現状と成果・課題は。

【A1】
小中学生の達成率は昨年度約75％。保育所・幼稚園児は低い状況で推移している。本を読むことで文字を読む力、言葉を読み解く力、文字を速く読む力などが養われ、学習面にもプラス効果が見られる。中学生の読書時間の確保と大人の読書の習慣化が課題。

【Q2】
保育所・幼稚園児のくまどく達成率が低い理由は。

【A2】
8割の保護者は家庭での本の読み聞かせができているが、くまどくノートへの記載までできていないため達成率に反映されていない。

【Q3】
「くまどくノート」は、年齢段階によって内容を変えても良いのでは。

【A3】
各年代に応じたノートの作成を検討したい。

▶くまどくノート

【Q4】
「くまどくノート」に代わる「読書通帳」を検討してはどうか。

【A4】
「読書通帳」を導入している三原市では、銀行の預金通帳そっくりのものを小中学生に配布している。費用面を含め検討したい。

『くまどく事業』とは
子どもと家族が同じ本を読みその感想等を共有することで、読書の習慣化と家族の絆を深める取り組み。

諏訪本 光 議員

Q 「コロナ対策」による学校の授業時間等の確保は。児童生徒への影響は

A 〈教育長〉

授業時間は確保できる見込みだ。
行事等で未実施のものもあるが、工夫し対応している。

【Q1】
臨時休業による児童生徒の学力格差や全体的な学力の低下はみられないか。

【A1】
学力格差は見られているが、個別指導などの対応を図っている。
全体的な学力低下は見られていない。学力調査結果等を見ながら、指導する。

【Q2】
行事等が中止になる中で、学校生活のリズムはどのようにしたか。また、実施が難しい行事への工夫はなかったのか。

【A2】
行事の形を変えるなど工夫して、例年に近い学校生活のリズムを保てた。
中学生の職場体験のように実施できなかった行事もあったが、参観者を保護者限定とした行事にしたり、学年単位に規模を縮小して実施した学校もある。また、オンラインを使うなどした。

【Q3】
最初から中止でなく、工夫し努力することが大切だ。それが次年度以降の取り組みの材料となる。教育環境は不十分であったが、個々の学年での学ぶべきことは「完結」しなければならない。学校と家庭と地域が一体となり、愛情をもって子どもを育てねばならない。
回答はいらない。

道路 交通

Q 熊野トンネル無料化後の平谷交差点交通量の検証は

中島 数宜 議員

A 〈町長〉

交差点の改良が行われた。その効果の検証と、必要により追加対策を適宜、要望する。

【Q1】
昨年、「交通量、地元の強い要望を踏まえ横断歩道の復元を判断する」との答弁であった。交通量の大きな増加はない。復元しないのか。

【A1】
豪雨災害の際、渋滞対策に伴い、歩行者の安全性を確保するため廃止されたが、引き続き、今後の状況に注視していく。

【Q2】
交通量が増加すれば、騒音、振動、排気ガス等、環境面の悪化が心配される。継続的な調査と、その対策検討は。

【A2】
交通量が増加する可能性はあるが、環境面に大きな影響は与えないと考えている。関係機関と連携し、交通量の動向に注視していく。

【Q3】
平谷地内の県道矢野安浦線は交差点まで熊野町に移管されると思うがその時期は。

【A3】
必要な道路修繕等を行った後に来年度中の移管と伺っている。

【Q4】
平谷地内は歩道幅も狭くガードレールもほとんどない。移管前に危険性の高い区間を解消した後、移管に応ずるべきである。

【A4】
移管前に改良的要素を除く舗装の打ち換え、側溝修繕、歩道の段差解消を実施すると伺っている。

▲熊野トンネル無料化